



鳥取こども学園 学園だより

第 11 号

2002 年 6 月 1 日

○発行

鳥取市立川町 5 丁目 417 番地

鳥取こども学園後援会

電話 (0857) 22-4206

○振込口座

郵便振替 01490-9-9106

題字 尾崎悌之助



竣工した希望館・教育棟

「子どもの心といのちを守るために」

—— 愛は絶えることがない ——

鳥取こども学園 希望館館長 松田 章義

「子どもの日」から始まった児童福祉週間の実施の趣旨に、「次代を担う子どもが健やかに生まれ育つことは、国民すべての願いであり、また、そのような環境をつくることは国民の使命である」と述べられています。

しかし、今日、子どもたちの家庭や学校、また地域社会など、子どもを取り巻く環境の整備・改善は遅々とし、その心といのちが危うい状況が続いています。

なお続く
児童虐待

平成十二

年度、全国

の児童相談

所における

児童虐待の

相談処理件

数のうち、

施設への入

所措置は二、

五千件で、

この二年間で一・八倍の増加でした。

鳥取こども学園にも被虐待の子どもの入所が相次ぎ、職員はその養育と心のケアに、日夜、骨身を削る苦悩が続いています。

この状況を改善するため、鳥取県に要望書を提出するとともに、直接、片山県知事に要請し、昨年末には現場視察の来園がありました。

その結果、この四月より単県補助として鳥取こども学園三名、希望館二名、県内の他の児童養護施設各一名、計九名（予算一、八〇〇万円）の職員加配。また、自立援助ホームの鳥取フレンドに、年間運営費の単県上乗せ四十一万円が予算化されました。

子どもの処遇の拡充

入・通所の子どもたちの処遇内容の充実を図り、毎年、機能の拡充と施設の整備などに努めています。このたび、鳥取こども学園創立百周年記念事業の一つとして、希望館の「教育・治療棟」を建築。来賓、関係者など、多くの方々の列席のもと、去る三月二十三日、盛大に竣工式を行いました。

建築延べ面積五八八㎡、総事業費（建築）

一一、〇四六万円で、日本財団、鳥取県、鳥取市から多額の補助金をいただきました。この事業によって、分散していた通所部門の小・中学校の教室や教務室などが統合でき、教育・治療機能と内容の向上が期待されます。

処遇の拡充は、地域の奉仕者による子どもたちの学習指導、幼児保育、理容、衣服等の繕い、庭木の手入れなど、多岐にわたる「愛の奉仕」があつてこそ。寄附金、物品供与とともに、心より感謝いたします。

自己研鑽による総合的發展

先日、学園にもゆかりのある故・伊谷賢蔵さんの「生誕百年記念展」が、県立博物館で開催されました。その特別展の図録の冒頭に、画伯の文の「絵として表れる部分と、それを生み出す人間内容と、総合的な發展があつてこそ、困難な芸術上の諸問題が、一つ一つ解決されていく……」の一節が掲げられていました。作品の暖かさ、おほかさ、品格の高さの原点でしょうか。福祉にも通じる答えを得た思いでした。

今後とも、職員一同、聖書のことばに基づき福祉の心を熱くし、また、たゆまぬ自己研鑽によつて力量を高め、更に、共に支え合う協働によつて、鳥取こども学園のキャンパスに「子どもの幸せな姿」を描くよう努めますので、皆様の変わらぬご理解とご支援を、心よりお願い申し上げます。

二〇〇一年度事業報告 及び今年度の事業計画

《法人本部》

昨年度も、尾崎倅子新理事長のもとに神様の「恩寵」と多くの皆様を支えられて、当園事業が恵みのもとに進められましたことにまずもって感謝申し上げます。

二〇〇一年度事業報告

一、鳥取こども学園希望館「教育・治療棟」(鉄骨二階建、延床面積五六八・五七平方米)が完成し、三月二十三日に盛大な竣工・祝賀会を開催しました。関係各位に感謝し、ご報告します。

収入の部			
日本財団補助金	73,200,000円		
県補助金	12,200,000円		
市町村補助金	6,100,000円		
県教育委員会補助金	3,540,000円		
市教育委員会補助金	1,770,000円		
自己資金	13,653,360円		
合 計	110,463,360円		
支出の部			
請負工事費	100,800,000円		
初度備品整備費	9,663,360円		
合 計	110,463,360円		

その他、八、七四六、〇〇〇円の県補助金を得て、第一児童棟、体育館、本館・サービスク棟の屋上防水・外装改修工事(総事業費九、九九六、〇〇〇円)および国庫補助金三、九五一、〇〇〇円を得て、パソコン導入による業務省力化事業(総事業費五、二六八、七九五円)も実

施し、法人本部としては、施設整備事業に追われた一年でした。感謝！

二、一方、各施設の入所状況等は下表のとおりで、虐待防止法施行以降、各施設とも被虐待児への対応で追われた一年でした。

二〇〇二年度事業計画

一、自立援助ホームに希望の単県補助金が増算され、児童養護施設や情短施設に被虐待児童対応の人員費補助金が増算されたことを受けて、処遇力の飛躍的強化を図りたい。

希望館教育・治療棟が出来たことにより地域交流ホームの二階教室部分が空いた後を生活空間に改造し、児童養護施設の各ホームの受持ち人数を少しでも減らすことを計画している。

二、創立百周年記念事業として、小規模グループホームの実現に向けて、第一歩を踏み出したい。

後援会寄付金から、改修工事費や、子どもたちの部活遠征費(最近子どもたちの部活費用が不足)など二百万円近く充当させていただきます。皆様の更なる御支援をお願いいたします。

2001年度各施設の月別利用状況及び2002年5月1日付入所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
養護施設	0 7	0 38	2 41	2 42	3 42	3 42	4 42	3 44	4 45	4 45	4 44	4 45	33 508
情短施設	25 13	26 14	26 15	26 15	27 15	27 15	26 15	28 15	29 15	28 15	29 15	28 15	325 177
外来相談	実人数：1,895人 延人数2,896人												
子ども家庭支援センター 希望館	実相談件数(電話177、来所173、訪問186):536件、延相談件数(電話195、来所444、訪問188):827件												827件
鳥取フレンド	11	11	11	11	10	11	11	10	10	8	9	9	122
保育所	144	148	153	156	158	160	164	166	169	168	165	165	1,916
子育て支援センター	174 13	266 16	344 18	326 18	297 13	295 18	376 20	273 16	237 14	189 12	231 14	262 16	3,270 188

本部会計決算書

(収入)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(△)額
補助金収入	134,852,000	134,853,435	1,435
寄付金収入	8,235,000	7,954,234	△ 280,766
雑 収 入	2,000,000	2,354,207	354,207
繰入金収入	880,000	880,000	0
積立金戻入	17,854,000	17,854,000	0
合 計	163,821,000	163,895,876	74,876

(支出)

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(△)額
事務費支出	3,000,000	3,063,343	63,343
元利償還金	4,958,000	4,958,150	150
繰入金支出	40,960,000	40,960,767	767
固定資産取得費	114,903,000	114,903,360	360
合 計	163,821,000	163,885,620	64,620

歳入歳出差引き残金 ¥10,256-は次年度へ繰り越す。

(注)事務支出には退職給与金を含む。

《児童養護施設

「鳥取こども学園」》

平成十三年度は被虐待児・特に幼児の入所で満員状態が続き、こども達への対応が大変な一年でした。

平成十二年度からの継続入所児童三十八名（年少児七・小学生十四・中学生五・高校生十・その他一）でスタートし、その後五月に未満児二名、年少児三名、七月に年少児一名、八月に未満児一名、十月に未満児一名、十一月に中学生一名、高校生一名、十二月に未満児一名、三月に小学生二名、中学生一名と計十四名の入所がありました。加えて、一時保護が延べ一五五人、シヨートステイが延べ三九人と落ちつく間もありませんでした。県にも緊急対応で職員の増員をお願いし、平成十四年度から三名の職員の臨時加配がいただけるようになりました。

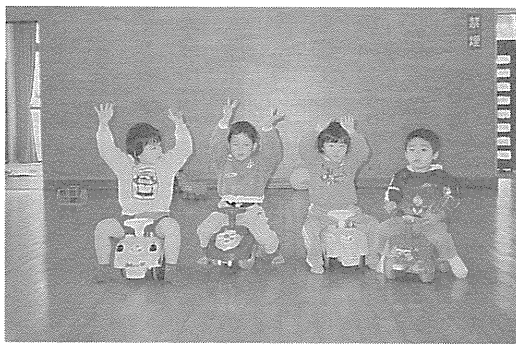
一方、平成十三年度の退所は、五月に年少児一名、高卒の就職が一名、八月に高校生一名、九月にその他一名、十月に未満児一名、一月に年少児一名と計六名の年度途中退所と年度末の三月に中卒児童一名、未満児二名、年少児二名の退所があり、年間計十一名となりました。

高卒の一名は進学、その他の一名はフ

レンド入寮、残りの児童九名は、家庭復帰でした。

平成十四年度は、平成十三年度からの継続入所児童四二名（年少児九・小学生十四・中学生十四・高校生八・その他二）でスタートしました。四月になって、大学進学で一名退所しましたが、入所も相次ぎ、現在は四四名の入所とすでに定員いっぱい状況を迎えております。

今後も、被虐待児の入所相談ケースは、絶えることがない状態ですし、一時保護、シヨートステイも昨年同様に依頼があると思われる。心に傷を負ったこども達のケアをどのようにしてゆくの、与えられた職員数で精一杯何ができるのか考えながら、やってゆこうと思います。



なかよし園で

児童養護施設 施設会計決算書

(収入)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(△)額
措置費収入	136,036,000	136,029,360	△ 6,640
補助金収入	4,353,000	4,454,770	101,770
寄付金収入	857,000	857,217	217
雑 収 入	4,054,000	4,211,338	157,338
引当金戻入	400,000	0	△ 400,000
合 計	145,700,000	145,552,685	△ 147,315

(支出)

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(△)額
事務費支出	111,955,000	111,264,977	△ 690,023
事業費支出	33,745,000	33,124,531	△ 620,469
引当金繰入	0	800,000	800,000
合 計	145,700,000	145,189,508	△ 510,492

(注) 雑収入には職員給食代を含む。

歳入歳出差引き残金 ￥363,177-は次年度へ繰り越す。

行 事

平成十三年十二月～十四年五月

〔学園関係〕

- 12月9日 鳥取いなばライオンズクラブ 餅つき大会
- 18日 餅つき招待（NTT・ME中 国鳥取支店）
- 23日 学園クリスマス祝会
- 24日 クリスマスイブ・ホームパーティー
- 1月2日 OBすきやき新年会
- 13日 学園創立記念日
- 11日 希望館通所部門・とんど焼き
- 20日 鳥取ライオンズクラブ杯学園卓球大会（鳥取ライオンズクラブ）
- 2月2～5日 児童福祉展（大丸）
- 15日 希望館通所部門・スキー遠足（おじろスキー場）
- 23～24日 高校生スキー合宿（氷ノ山スキー場）
- 3月11日 希望館通所部門・卒業生を送る会
- 12日 THEつくくビットコンサート招待（県民文化会館）
- 13日 高校生卒業生を送る会
- 4月27日 中央ライオンズとのしいたけ

《情短施設「希望館」》

平成十三年度の入所宿泊部門は、平成十二年度からの継続児童二十三名に、新規入所児童二名を加えた計二十五名でスタートしました。その後の入所児童は、四月に一名、七月に一名、八月に一名、九月に一名、十一月に二名、十二月に一名、一月に一名の計八名がありました。退所児童は六名あり、八月に県外からの中学生が地元の中学校に復帰、九月に十九歳男子が家庭復帰、十月に十七歳男子が県外に就労、一月に二十歳男子が家庭復帰、二月に小学生が家庭復帰、三月には高校生の家庭復帰と高校卒業の男子が県外の専門学校に進学しました。

通所部門は、平成十二年度からの継続児童十一名に、新規通所児童二名を加えた計十三名でスタートしました。その後の入所児童は、五月、六月にそれぞれ一名が加わり、六月で定員いっぱいになりました。通所終了は、年度末の三月に中学三年生の六名がありました。この六名は無事に高校に合格し、進学しました。

平成十四年度の入所宿泊部門は、平成十三年度からの継続児童二十八名に、新規入所児童一名を加えた計二十九名（小学生七名、中学生十三名、高校生七名、その他二名）でスタートしました。通所

部門は、平成十三年度からの継続児童九名に、新規通所児童二名を加えた計十一名（小学生一名、中学生九名、その他一名）でスタートしました。

昨年度の特徴は、県外の児童相談所からの入所依頼が多かったことです。全体では十二件の依頼があり、遠くは関東からのものでした。このように、県外の児童相談所からの依頼が多かったのには、二つの大きな理由があります。一つには、虐待された児童には心理的なケアが必要であり、心理的ケアを行う機能が充実しているのが、当館のような心理療育施設であると考えられていることです。もう一つには、心理療育施設が、全国にまだ二十一施設しかなく、施設数が不足しているためです。

国としても各都道府県に心理療育施設を設置する方針です。一日も早く、全国



分教室の卒業生を送る会

に心理療育施設が設置され、心理的なケアが必要な子どもへの受け皿が充実することを心から願っています。

情短施設 施設会計決算書

(収入)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(△)額
措置費収入	146,632,000	146,786,731	154,731
補助金収入	16,164,000	16,267,800	103,800
寄付金収入	51,000	50,000	△ 1,000
繰入金収入	0	0	0
雑 収 入	2,431,000	2,544,810	113,810
人権費引当金戻入	1,138,000	0	△ 1,138,000
修繕引当金戻入	869,000	869,000	0
備品等購入引当金繰入金	1,318,000	1,317,795	△ 205
合 計	168,603,000	167,836,136	△ 766,864

(注) 雑収入には職員給食代を含む。

(支出)

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(△)額
事務費支出	142,200,000	141,718,549	△ 481,451
事業費支出	26,403,000	25,902,847	△ 500,153
引当金繰入	0	0	0
修繕引当金繰入	0	100,000	100,000
備品等購入引当金繰入	0	0	0
合 計	168,603,000	167,721,396	△ 881,604

歳入歳出差引き残金 ¥114,740-は次年度へ繰り越す。

5月13～17日	鳥取東中学校職場体験学習(二年生七名来園)
4月25日	保護者会総会
4月3日	春の親子遠足(こどもの国)
4月1日	第五十二回入園式
3月23日	第五十一回卒園式(卒園児32名)
3月13日	お別れ会
3月6日	修立小学校体験入学(年長児)
3月1日	ひなまつり
2月22日	交通安全教室(保護者会主催)
2月21日	「育児講座」…講師 原田 彰氏
2月20日	わくわく子育て支援センター「育児講座」…講師 谷本 幸子氏
2月15～17日	作品展
2月16	食試(食会)
1月16～18日	参観日週間(講演会・給食試食会)
1月15日	クリスマス祝会
12月6日	わくわく子育て支援センター「育児講座」…講師 谷本 幸子氏
5月1日	焼肉パーティー
5月1日	児童福祉週間・こいのぼり掲揚式(こどもの国)
5月19日	学園こども祭り

〔みどり園関係〕

《保育所「鳥取みどり園」》

二〇〇二（平成十三）年度は、新しく

二十三名のお子さんをお迎えして、四月当初一四四名でスタートしました。その後も○歳児（産休・育休明け）の入所が毎月続き、六月には定員オーバーとなり年度末には、三歳未満児六十七名、三歳

以上児九十八名　計一六五名となりました。従つて、職員もその都度増員（臨時パート）し、対応してきました。一年間大きなけがや事故もなく過ごすことが出来たこと感謝しています。また、五年目を迎えた「わくわく子育て支援センター」も地域の中で子育て中の親子が気軽に利用し、楽しく子育てが出来る場」として、いろんなメニューを考え、頑張つております。十三年度の利用家庭数は、延三、二七〇家庭で、利用人数は延七、一六二



名、一日平均
十五〜二十家
庭の親子が利
用し、喜んで
いただいてお
ります。その
他、エンゼル
プランの特別
事業を次の通

り実施しております。

○乳児保育促進事業

○障害児保育促進事業

○開所時間延長促進事業（朝七時～夕刻七時）

二〇〇二（平成十四）年度も、地域に開かれた保育園として、地域に愛され、信頼されるように、豊かな感性と愛情をもつて、一人一人の子どもに関わっていきたいと思います。また、保護者のみなさんが安心してお仕事が出来よう支援すると共に、子どもたちがいろんな人と出会い、いろ



んなことを経
験しながら、
より豊かに、
より健やかに
育つよう援助
していきたい
と思います。



「みどり園一年生」

事務 佐藤靖子

卒業後の進路は就職と決めていた私だったが、何年も続く就職難のため、なかなか求人票が来なくてとても不安がっていました。しかしそんな時に来たのがこの「鳥取みどり園」からの求人票でした。私はもともと子供が好きなので、保育園で働くことが出来たらとても楽しいだろうなあと思っていました。

そして実際に働き始めて約一カ月。

この鳥取みどり園は、子供たちの声が大きく響き合い、私が考えていた以上に明るく、楽しすぎるくらい保育園でした。鳥取みどり園に就職して本当によかったと思います。

私はまだまだ微力なので、これからもういろいろな大変だと思うけど、一生懸命頑張っていきたいです。

[illegible]

(收入)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(Δ)額
運営費収入	127,202,790	127,220,510	17,720
補助金収入	24,805,253	24,836,053	30,800
寄付金収入	450,000	459,300	9,300
利用料収入	590,000	565,650	△ 24,350
雑 収 入	1,606,071	1,636,889	30,818
引当金戻入	0	0	0
合 計	154,654,114	154,718,402	64,288

(支出)

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(△)額
事務費支出	134,021,114	133,920,356	△ 100,758
事業費支出	19,753,000	19,505,833	△ 247,167
引当金繰入	0	0	0
繰越金支出	880,000	880,000	0
合 計	154,654,114	154,306,189	△ 347,925

(注) 雑収入には職員給食代を含む。

歳入歳出差引き残金 ￥412,213-は次年度へ繰り越す。

《子ども家庭支援センター「希望館」》

家庭支援センターの昨年度の相談件数は延べ八〇〇件を超えました。相談の内容は発達障害の相談、虐待の相談、不登校の相談など様々です。相談の内容によっては、センターだけではなく、学園内の先生方、他施設、他機関に協力をお願いする場合も多くあります。

現在、家庭支援センターでは携帯電話を利用した二十四時間体制で電話相談を受け付けています。また、子育てSOS支援ネットワークで利用しているEメールでの相談も受け付けています。このような相談手段の多様化によって、今後相談件数が増加すると予想されます。

また、相談依頼者の多くが母親ですが、子育ての悩みを通じて母親自身の悩みについても話される場合も多くあります。子どもに対する支援だけでなく、母親や家庭に対する支援も今後ますます重要になると思われます。

以上のような様々な相談のニーズに合わせて対応できる家庭支援センターをこれから目指していきたいと思えます。

平成13年度子ども家庭支援センター実績

①相談方法別件数

相談方法	実件数	延件数
電 話	177	195
来 所	173	444
訪 問	186	188
その他()		
合 計	536	827

③夜間の対応、及び一時保護件数(延件数)

夜間の対応			一時保護	
来所	電話	訪問	件数	延べ所要時間
5件	43件	0件	2件	288時間

②相談内訳別件数(実件数)

養 護 相 談 虐待(再掲)	保健 相談	障害 相談	非行 相談	育 成 相 談					その他の 相談	合 計	いじめ相 談(再掲)	
				性格行動相談	不登校相談	適性相談	しつけ相談	小 計				
26	20	16	7	9	195	23	51	143	412	66	536	(3)

子ども家庭支援センター「希望館」 会 計 決 算 書

(収入) (単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(Δ)額
補助金収入	9,790,000	9,790,000	0

(支出)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(Δ)額
事務費支出	9,790,000	9,790,000	0

《自立援助ホーム「鳥取フレンド」》

平成十四年度は、在籍数が、男子五名、女子四名、合計九名でスタートしました。昨年平成十三年度の入退所の推移は、四月は男子二名退所、男子二名入所、五月から七月は変化なく、八月は、男子一名退所、九月は、女子一名入所、十月変化なく、十一月は、男子一名、女子一名が退所し、男子一名が入所、十二月は変わりなく、一月は、男子二名退所、男子一名入所、二月、三月は変化なし、という状況でした。

家庭裁判所の補導委託先になっていますが、昨年、平成十三年度は、試験観察で補導委託になる対象者はありませんでした。保護観察所の補導委託対象者は、四月から八月までは一人でしたが、九月からは三名となり、二月初日までその状況が続きました。その後、二人解除となり、三月より新しく一人加わり、計二名となりました。

昨年度はフレンド内でも失業率は高く停滞した時期が続き、ホームの子も職員も閉塞感と焦りを感じていました。が、今年度より、常勤職員二名で関わることでできるよつになりました。関係者の方々のご理解に、深く感謝いたします。月一回のフレンドリーの会も充実させ、入寮者の自立に向け、援助、協力を強化していきたいと思えます。

自立援助ホーム「鳥取フレンド」施設会計収支決算書

(収入)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(Δ)額
補助金収入	4,016,000	4,016,000	0
寄付金収入	520,000	404,220	△ 116,000
利用者負担金収入	1,600,000	1,493,800	△ 106,200
雑 収 入	1,600,000	2,043,520	443,520
引当金戻入	1,500,000	1,300,000	△ 200,000
繰入金収入	2,200,000	1,400,000	△ 800,000
前年度繰越	229,000	228,827	△ 173
合 計	11,665,000	10,886,367	△ 778,853

(支出)

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(Δ)額
事務費支出	7,324,000	7,040,759	△ 292,046
事業費支出	4,341,000	3,476,209	△ 864,791
引当金繰入	0	0	0
合 計	11,665,000	10,516,968	△ 1,156,837

歳入歳出差引残金 ￥369,399-は次年度へ繰り越す。

(注) 雑収入には家裁、保護観察所からの保護委託費を含む。

2001年度（2001年4月～2002年3月）の後援会費・寄付金は398件、総額で7,107,622円となりました。

心より感謝申し上げます。

(敬称略)

[illegible]

物品寄付者 (2001.12~2002.5)

(敬称略)

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
アイスクリーム協会 秋崎 るり子 青木 猪口吉野 (有)光琳 克江子 入植 河田 祥子 浦川 麻子 (株)上田 包装 企業 寛 朝 資 佐 々 木 義 憲 奥 山 義 政	北 河 裕 子 小 泉 (鳥 取 教 会) 廣 坂 (修立小学校) 黒 川 和 子 坂 下 誠 行 貞 吉 猛 沢 田 (シオン会) 三 友 商 事 岩 永 文 彦 坂 出 尚 久 坂 田 和 子 下 石 義 忠 ・ 洋 子	修 立 小 学 校 大 樹 寺 大 丸 大 協 ダイヤモンド会 竹 森 彰 (株)竹中工務店鳥取営業所 鳥取更生保護婦人会 鳥取県中小企業団体中央会 戸 田 (東 中) 中 川 酒 造 日 赤 学 生 奉 仕 団	広 田 食 料 品 店 藤 井 久 美 三 島 幸 子 松 本 二 三 子 松 山 は る 憩 い の 家 三 好 洋 子 山 崎 綾 子 山 内 省 二 山 本 大 順 米 村 由 美 米 山 幹 雄

鳥取こども学園後援会 2001年度収支決算書

(収入) 自2001.4.1 至2002.3.31

(単位: 円)

科 目	金 額			摘 要
	当 年 度	前 年 度	増 減 (△)	
後 援 会 費	2,403,388	2,268,104	135,284	352件 昨年263件
雑 収 入	1,005	2,284	△ 1,279	預金利息
前 期 繰 越 金	4,315,463	3,568,950	746,513	12年度繰越
合 計	6,719,856	5,839,338	880,518	

(支出)

(単位: 円)

本部会計へ寄付	3,250,000	1,400,000	1,850,000	自立援助ホーム140万円、地域交流ホーム75万円、教育治療棟110万円
役 務 費	15,840	10,255	5,585	振り込み手数料
施設会計へ寄付	0	0	0	
雑 費	0	113,620	△ 113,620	
合 計	3,265,840	1,523,875	1,741,965	

歳入歳出差引残金 ¥3,454,016-は次年度へ繰越す。

鳥取こども学園 同窓会のご案内

毎年、盆の8月14日
と正月の1月2日の夕
方6時半に学園の地域
交流ホームで、同窓会
を行っています。なつ
かしい顔に会えますの
で、お気軽においでく
ださい。

「鳥取こども学園後援会」加入と会費納入のお願い

鳥取こども学園の事業は、言うまでもなく「民間社会事業」です。「制度」も何もないところから出発した創立当初の困難を想い、民間社会事業の先駆性・献身性を受け継ぎたいと思います。公的な制度と資金だけでは到底足りません。

「鳥取こども学園後援会」加入と会費納入をお願いします。

お陰様で、1981(S.56)年に借りた5千万円の借金の返済(毎年元金249万円×20年)が、完了しました。まだ毎年、元金188万円の返済が残っていますが、昨年の教育・治療棟の建設でも借金をせずに済ませることができました。感謝! 今後は、子どもたちへの処遇強化に努めたいと思います。更なるご支援をお願いします。

1. 「鳥取こども学園後援会」へご入会下さい。
2. 地域、職域でできるだけ友人・知人に呼びかけて下さい。
3. 個人でも団体でも、会社や法人でも加入出来ます。
4. 年会費は、個人1口3,000円、団体・法人1口10,000円で、1口以上何口でも結構です。

会費・寄付金は下記へ

鳥取こども学園後援会事務局: 〒680-0061 鳥取市立川町5-417 鳥取こども学園内

☎(0857)22-4206・21-9551 FAX23-0242

振込み口座名義: 社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 尾崎倭子

3422812

振 込 口 座: 郵便振替 01490-9-9106

山陰合同銀行鳥取営業部

普通 2124157

鳥取銀行本店

普通 7645611

お 願 い

「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設の様子や計理状況、ご寄付等を報告と、お礼を申し上げる意味で発刊し、お送りしています。

同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考えてのことです。

ご無理のないようお願い申し上げます。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。